



— 学 校 — ひ と — 地 域 —

地域とともに育ち、地域とともに 発展する開かれた学校を目指して

見沼区 大砂土中学校 教頭 汐 満 猛



<自治会と学校>

「こんばんは、おそくなりました。大砂土中の教頭です」

「いらっしゃい。待ってましたよ。今月号はどんな内容かな」

学区には、多くの自治会がある。先の会話は、ある自治会長のお宅へ「学校便り」を届けたときのやりとりである。会長は、自治会の他に民生委員・主任児童委員の会の長でもある。そこで、月初めの会に、本校の学校便りを紹介していただくために自宅へ直接届けている。

本校の「学校便り」の特徴は、校長自ら編集長となり、その時期の学校の努力点、生徒のよさや課題、保護者や地域との結びつきが、多彩な記事や写真等で構成されていることである。実のところ、生徒や保護者の評判がすこぶるいい。

私は、先の自治会長とお会いするたびに、大砂土中学校や見沼区に対する多くの「思いや願い」を聴いた。その一例として、市のスポーツ振興計画「ジョイフルスポーツプランさいたま市」の話がある。本校の体育施設の開放について説明したときのこと、

「小学校はともかく、中学校は、生徒さんが中心で、地域に開放できないくらい生徒さんが使ったほうがいいと思う。そうじゃないかなあ」

とおっしゃった。頭の下がる思いがした。実は、会長は、地区体育振興会の会長でもある。地域の体育振興を推進する立場の会長が、生徒のことを第一に考え、中学生にとって部活動が如何に大切な教育であるかを改めて諭された事に恐れ入る思いであった。

<公民館と学校>

本校では、平成14年度から公民館との共催で、高齢者を対象とした初心者パソコン教室を夏季休業中に実施している。この事業の特徴は、一つに、公民館職員と教員が共同で実施時期や内容を企画すること。二つめに教員が指導者となり、何より生徒が助手として実際の指導にあたることである。

また、PTAと共催で夏に「草刈ボランティア」、秋には「レッツ・ジョイン！クリーン活動」を行っている。この二つのイベントには、生徒や教職員をはじめ、PTAや学校を利用している団体等地域の方々にも多く参加していただいている。先のパソコン教室に参加されていた方が、

「いやー、生徒さんにパソコンの手ほどきを受けたおかげで、残暑見舞いのハガキが作れた。私は、草木のことは詳しいから、草刈りでも木の剪定でもできることは手伝いますよ」と言ってくれた。子どもたちは大人にパソコンを教え、大人に草刈りを学ぶ。本市が取り組む「潤いの時間」の「人間関係プログラム」の実践がここにあると思う。パソコンや草刈りといった作業の中で、自然に必要な会話が生まれる。そして、話すこと以上に一生懸命に聴く姿勢から、年齢差を超えた良好な人間関係が構築されていくのではないだろうか。

保護者や地域の方々から「話を聞いてもらいたい」と思える学校こそ、今、求められる開かれた学校ではないだろうか。私は、これからも一人ひとりの教職員とともに地域の方々との触れ合いを大切にしていきたい。

(しおみつ たけし)